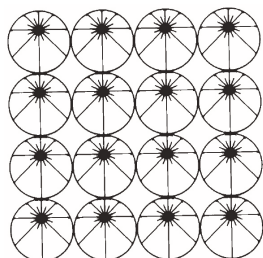


巻頭言



持続可能な開発のための 2030 アジェンダ

執行役員, CTO
高橋 幸宏



世界を変えるための17の目標として、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が2015年9月の国連サミットで採択されました。2017年は、「SDGs」という言葉が多くの企業、団体の活動で取り上げられた年でありました。一つ一つの目標について、ここで詳しく述べませんが、それぞれの目標は、会社・人が宇宙船“地球号”の一員として目指す・認知すべきものといえます。アンリツも、「SDGs」を達成するための取り組みを進めていきます。

中でも「技術革新」は、非常に重要なキーワードです。経済成長を第一に、資源を消費・浪費してきた20世紀型社会から、再生・リサイクル型の社会に変わっていくための原動力となるからです。今日、たくさんの技術革新に関する記事を見ることができます。例えば、5G（第5世代移動通信システム）、IoT（Internet of Things）、人工知能（AI：Artificial Intelligence）、ロボティクス、自動運転、EV（Electric Vehicle）、再生可能エネルギー、ビットコイン等々挙げれば、きりがありません。これらの技術の実現と普及は、SDGsを実現する基盤となるでしょう。

技術的な視点で見た場合、これから2030年に向けて人類は、これまでに経験したことがない大きなチャレンジに直面します。それは、日常的に人類とロボットが共存する社会です。これまで、多くのロボットは隔離された空間に設置され、人間に代わって決められた単純な作業や長時間の作業をする存在でした。しかし、スマートフォンの登場と普及によって、大きな変革が起きました。

- 1) 安価で高性能なセンサーの出現
- 2) LTE（Long Term Evolution）に代表される低遅延でかつ広帯域ネットワークの拡大

3) 巨大なデータセンターの出現と人工知能の応用（言語認識、画像認識、検索エンジンなど）の拡大

4) 低消費アプリケーションプロセッサの著しい性能改善
これらが機械に認知する能力を与えると同時に、自律する能力を与えつつあります。その身近な例は、自動運転です。自動運転は、カメラ、レーダーなどで機械が外界を検知しながら、周りの車と協調し自律して運行するものです。その他の新しい応用も数多く提案、実用化されるでしょう。ロボットや人工知能と人が共存するためのルール作りは、今後の大きな課題です。「安全・安心」を実現するルールが策定されていくことでしょう。

アンリツの提供する製品・サービスが「技術革新」を支援するとともに「安全・安心な社会の構築」に貢献できることが、社会的な使命と考えております。

アンリツテクニカル No.93 では、5G、IoT、安全・安心に関連した製品開発や研究テーマが掲載されております。是非、弊社の取り組みと強みを知ってもらえればと思います。

最後に大きな社会変革が起こる時代に、協創するパートナー候補として認知してもらえれば幸いです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

